

様式第 2 号

視察研修先	独立行政法人国立病院機構 四国こどもとおとなの医療 センター	氏名	荒木 春吉
視察研修項目	ホスピタルアートの取り組みについて		
<p>感想・所見など</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 女性職員 1 人で全説明と案内をしていただきました。自信を持って説明されており、事業への熱意が伝わってきました。</li> <li>2. 視察当日は、ピアニストの松田華音氏による演奏会があったとのこと。費用は全額県負担とのこと（羨ましい）。ちなみに松田氏は 6 歳からロシアに留学した閨秀ピアニストです。</li> <li>3. 説明後の実地見聞では、放射線治療室・ボランティア工作室、そして免震装置 etc.. と見聞しました。予算がかけられているのが一目瞭然でした。</li> <li>4. 屋上にある植栽庭園は地元中学生ボランティア活動の一環から誕生したとのこと。患者皆々様の眼福になることを祈ります。</li> <li>5. Art（絵と音楽 etc..）は、Heart（心臓）に通ずるとか。壁絵を描いた画家達の哲学に共感しつつ全患者の自然治癒力を高めるそうです。絵を描く行為はモノを大事にする心に繋がるとの説明があった。</li> </ol>			

様式第 2 号

視察研修先	香川県高松市議会	氏名	荒木 春吉
視察研修項目	市立病院の再編・ネットワーク化について		
感想・所見など			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理事長以下 11 名の職員に対応していただいたことに驚きました。誠にありがとうございました。</li> <li>2. 高松市の市立病院再編については、総務省自治財政局が今年 8 月に発した自治体病院間再編（ネットワーク化）資料の例として掲載されていた。</li> <li>3. 当初は平成 26 年の開院を目指していたが、諸般の事情によるのか 4 年延びて去年の 9 月の開院となった。4 年間の苦闘があったようだ。</li> <li>4. スタート時の外来患者は 70 人余の減少だったそうです。借入れ時の条件である 2 年間の職員給与の削減を断行し、（その間における職員協力によって使命感も下がらず）何とか凌ぎ切ったとのこと。</li> <li>5. 医師確保については、地元の徳島大学にも日参したとのこと。なかなか厳しい状況との説明。そんな中で、癌と救急医療、そして南海トラフ地震対策の DMAT の 3 つに特化しているとのことでした。</li> </ol>			

様式第 2 号

視察研修先	愛媛県四国中央市議会	氏名	荒木 春吉
視察研修項目	子ども若者発達支援センターについて		
感想・所見など			
<p>1. 3名の職員の方に対応していただき、誠にありがとうございました。</p> <p>2. 収入予算は7千万円余。支出予算は3倍余の2.5億円。これは四国中央市だから可能な施策だと見る。</p> <p>3. 煙突群が印象的な四国中央市の年間製紙関連出荷額は500億円超との説明。支援センターの建物（ハード）を見れば納得の感があった。</p> <p>4. 対象者のプレーイング・ルームの豪華さに驚きを隠せなかった。クーラー備え付けはもちろん、コンクリート柱には激突防止の緩衝材まで貼り付けてある。至れり尽くせりの状況。（少々過保護ではないかと拙者は思いたい。）</p> <p>5. 年中児相談事業について、資料にも掲載されていたが、アンケートの実施状況は配布者65名に対して支援活動が要ると答えた親御さんの数は1/30の2名余でした。大人たちの自覚を持つ難しさを痛感するのみ。</p>			